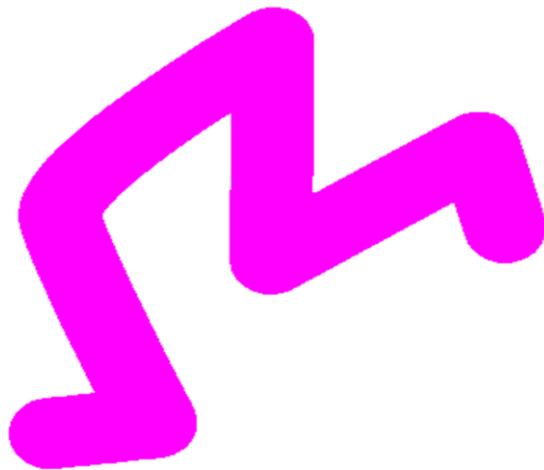


2018年度

事業報告書  
決算報告書

(2018年4月1日～2019年3月31日)



一般財団法人宝塚市保健福祉サービス公社

# (目次)

事業報告書	頁
1. 総括	3
2. 理事会・評議員会に関する事項	5
3. 組織及び職員に関する事項	7
4. 事業の実施に関する事項	10
(1) 在宅の高齢者等に対する保健福祉サービスに関する調査研究等	10
(2) 在宅の高齢者等に対する保健福祉サービスに関する知識の普及啓発	10
(3) 介護技術等研修事業	11
(4) ステップこはま訪問看護ステーション	12
(5) 介護老人保健施設ステップハウス宝塚	12
(6) 通所リハビリテーション	13
(7) 訪問リハビリテーション	13
(8) ステップごてんやまケアプランステーション	14
(9) ステップこはまケアプランステーション	14
(10) ステップいけのしまケアプランステーション	14
(11) ステップこはまヘルパーステーション	14
(12) 池ノ島デイサービスセンター	15
(13) ステップごてんやまりハビリクラブ	15
(14) ステップこはま24hケアステーション	16
(15) 御殿山地域包括支援センター	16
(16) 小浜地域包括支援センター	17
(17) 視察等受入状況	18
(18) シルバーハウジング生活援助員派遣事業	21
(19) ファミリーサポートセンター事業	22
(20) 介護ファミリーサポートセンター事業	22
(21) 言語訓練事業(話咲会)	23
(22) 介護予防普及啓発事業(いきいき百歳体操)	23
(23) ステップはつらつ体操教室	24
(24) 認定調査ステーション	24
(25) ステップ相談支援センター ベルフラワー	24
決算報告書	
1. 正味財産増減計算書	27
2. 正味財産増減計算書内訳表	29
3. 貸借対照表	33
4. 財産目録	34
5. 財務諸表に対する注記	36
6. 附属明細書	39
監査報告書	
1. 監査報告書	41

2018年度

# 事業報告書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

一般財団法人宝塚市保健福祉サービス公社

## 1. 総括

平成 30 年度は、介護報酬改定が実施され、改定率 0.54%のプラス改定となりました。各事業においては改定内容に対応すべく新設された加算の取得、また事業内容の見直し等について検討・実施してまいりました。

また、第 2 期中期経営計画（チャレンジプラン 2016～2018）の最終年度にあたり、計画上の目標数値達成のため、特に課題となる事業について事業見直しプロジェクト会議（キックオフミーティング）を実施、さらに経費削減キャンペーンを企画し、様々な取り組みを行うことで支出の軽減に努めてまいりました。その他にも、外部への発信力を高めるため広報プロジェクトチームによる PR 活動の強化、また職員によるサービスの質の向上のため研修プロジェクトチームによる研修体制の充実を図りました。

一方、管理部門においては、就業規則改正作業の実施、第 3 期中期経営計画（チャレンジプラン 2019～2021）の策定準備、賞与支給額の見直しや一般職員向けの処遇改善加算金を廃止するなど健全な財務体質確立のため各施策を推進いたしました。

### ① 介護保険事業

「介護老人保健施設事業（ステップハウス宝塚）」においては、市立病院や居宅介護支援事業所、関係機関と積極的に連携し、延べ利用者数は対前年度比 99.4%と横ばいであったものの増収となり、支出削減効果もともない大幅な増益となりました。また、引き続き在宅復帰強化型老健として稼働率を維持し、在宅復帰率向上への取り組みを行い、介護老人保健施設本来の役割を果たすべく積極的な運営に努めました。

「通所リハビリテーション事業（ステップハウス）」、「通所介護事業（池ノ島デイサービスセンター）」については、介護職員不足の要因もあり、大規模から通常規模への移行を行い、その影響から、それぞれ述べ利用者数は、対前年比 88.0%、90.7%と大幅減となり、ともなって収益も大幅に低下いたしました。しかしながら、今後通常規模化による適正な収入、支出の状態が安定すれば収益については一定の成果が見込まれると予測しております。また「ステップごてんやまりハビリクラブ」については、介護報酬改正の影響もあり、述べ利用者数対前年度比 92.7%と大幅減、収支差もマイナスに転じております。

「訪問看護事業（ステップこはま訪問看護ステーション）」では事業規模が縮小し、述べ訪問件数は対前年度比 80.4%の減となり、収益が大幅に低下したものの質の高いサービス提供を念頭に、徐々に職員体制も整備され、堅実な運営に向け進みつつあります。

「訪問介護事業（ステップこはまヘルパーステーション）」では、前年度に廃止となった「ステップさかせがわヘルパーステーション」の利用者を取り込んだため、述べ訪問回数は、対前年度比 107.8%の増となったものの支出も増加し、減益となりました。また「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業（ステップこはま 24h ケアステーション）」と兼務する職員も多く、両事業の運営実態を明確にすることが当面の課題です。

「居宅介護支援事業」では、平成 29 年度末にステップさかせがわケアプランステーション、平成 30 年度末にステップいけのしまケアプランステーションが閉鎖したことともない、ステップこはま・ごてんやま両ケアプランステーションがケース移管を受け入れ、利用件数はそれぞれ対前年比 100.5%、113.1%と増加しました。また、収益に関しても統合化による事業展開により各ステーションとも黒字に転じております。

これらの結果、介護保険事業における収入は前年度比△44,891,666円(96.2%)の減となりましたが、支出についても、前年度比△67,501,603円(94.0%)の減となり、収支差額は74,629,373円と前年度比22,608,937円(143.5%)の増益となりました。

## ② 公益目的事業

介護職員初任者研修事業では、受講生は年々減少しているものの、人材確保につなげるべく年1回開講いたしました。また、日常生活総合事業における「訪問サービスA型事業従事者養成研修」についても年2回開催、延べ19名の参加を得て宝塚市介護保険課と連携して実施いたしました。ファミリーサポートセンター事業においては、育児と介護の一体的運営について市と協議を継続しました。介護保険認定調査事業については、増加する調査件数に対応すべく職員体制の整備に取り組みました。さらに通所型介護予防事業では、「いきいき百歳体操」が地域で順調に増加し、会場数も127会場となりました。自主事業となる「ステップはつらつ体操」についても現在123名の登録者、市内10会場での開催となっております。

公益目的事業の収入につきましては前年度比△137,213円減の74,568,004円(99.8%)、支出については前年度比11,982,708円の105,148,549円(112.9%)となり、この結果、収支差額は対前年比△12,119,921円の△30,580,545円となりました。

## ③ 管理・設備事業

支出削減への取り組みの一環として、保安業務について抜本的な見直しを行い、人員体制、勤務時間の変更及び賃借物件の解約を行いました。また、経営面においては、人事制度改革における評価制度見直しワーキング会議を継続し、給与・等級体系や人事評価制度の検討、見直しを行いました。次年度についても継続して検討してまいります。

一方、施設設備の整備事業につきましては、ステップハウス宝塚北棟の老朽化に伴う大規模改修事業として、「空調設備工事(約3,672千円)」、パソコンネットワーク環境整備のため「リモートネットワーク工事(約1,496千円)」、「サーバー更新工事(約6,609千円)」を実施いたしました。

平成30年度における当公社の収支決算につきましては、経常収益1,209,914,288円、経常費用1,224,818,242円、収支差額は△14,903,954円と対前年度比で19,548,967円のプラスと大幅に改善したものの3期連続の赤字決算という結果となりました。

上記の結果を受けて、次年度以降、黒字化に向けさらなる財務体質改善への取り組みが必要となっております。事業面では、加算取得による収入アップと業務オペレーションの改善による効率的事業運営の実施を目指します。また、管理面においては新処遇改善加算金の有効活用の検討、さらに2020年度に控えた大規模修繕工事(空調設備)に向け、ステップハウス宝塚における工事期間中の稼働率の低下にともなう収入減への対応方法を宝塚市役所担当課等と十分に検討し、計画的に取り組んでまいります。

一方、平成30年度からスタートしている「宝塚市地域包括ケア推進プラン(2018～2020)」において福祉公社が担うべき役割について、市担当課と協議を進め、他機関と連携を図りつつ、計画のスローガンである「健康で、安心して自分らしくいきいきと暮らし続けられるまち宝塚」の構築に向けて職員一丸となって取り組んでまいります。

## 2. 理事会・評議員会に関する事項

### (1) 理事会

区 分	日 時 ・ 場 所 ・ 付 議 事 項	結 果
第1回	平成30年6月6日(水)	
	於：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 南棟1階会議室	
	議案第1号 平成29年度事業報告について	承認
	議案第2号 平成29年度収支決算報告について	承認
	議案第3号 公益的支出計画実施報告書の提出について	承認
	議案第4号 平成30年度「特定資産」の取り崩しについて	承認
	議案第5号 資金運用執行責任者の任命について	承認
	議案第6号 平成30年度第1回定時評議員会の開催について	承認
報告第1号 平成29年度発生事故について	報告	
第2回	平成30年12月6日(木)	
	於：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 南棟1階会議室	
	議案第1号 平成30年度上半期の経営状況について	承認
	議案第2号 平成30年度第1回臨時評議員会の開催について	承認
	報告第1号 平成30年度上半期の発生事故について	報告
第3回	平成31年3月14日(木)	
	於：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 南棟1階会議室	
	議案第1号 平成30年度事業計画について	承認
	議案第2号 平成30年度収支予算について	承認
	議案第3号 平成30年度第2回臨時評議員会の開催について	承認
	報告第1号 一般財団法人宝塚市保健福祉サービス公社、組織規程、事務処理規程、就業規則の改正について	報告

(2) 評議員会

区 分	日 時 ・ 場 所 ・ 付 議 事 項	結 果
第1回 定 時	平成30年6月26日(火) 於：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 南棟1階会議室	
	議案第1号 平成29年度収支決算報告について 報告第1号 平成29年度事業報告について 報告第2号 公益目的支出計画実施報告書の提出について 報告第3号 平成30年度「特定資産」の取り崩しについて 報告第4号 資金運用執行責任者の任命について 報告第5号 平成29年度発生事故について	承 認 報 告 報 告 報 告 報 告 報 告
第1回 臨 時	平成30年12月17日(月) 於：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 南棟1階会議室	
	報告第1号 平成30年度上半期の経営状況について 報告第2号 平成30年度上半期の発生事故について	報 告 報 告
第2回 臨 時	平成31年3月28日(木) 於：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 南棟1階会議室	
	報告第1号 平成31年度事業計画について 報告第2号 平成31年度収支予算について 報告第3号 一般財団法人宝塚市保健福祉サービス公社、組織規程、事務処理規程、就業規則の改定について	報 告 報 告 報 告

### 3.組織及び職員に関する事項

#### (1) 役員

2019年3月31日現在

(理事・監事)

(評議員)

	役員の種類	名 前	備 考
1	理 事 長	妙 中 信 之	ステップハウス 宝塚施設長
2	常 務 理 事	岸 本 和 夫	公社常務理事
3	理 事	明 石 章 則	宝塚市 病院事業管理者
4	理 事	稲 野 廣	宝塚市社会福祉 協議会理事長
5	理 事	今 井 信 行	宝塚市医師会
6	理 事	鵜 澤 靖	公社事務局長
7	理 事	島 田 康 治	宝塚障害福祉 市民懇談会会長
8	理 事	辻 田 智 子	宝塚市介護者 家族の会かなえ の会会長
9	理 事	福 住 美 壽	宝塚市民生委員 ・児童委員連合 会会長
10	理 事	松 井 眞 理 子	宝塚市薬剤師会 副会長
11	理 事	山 岡 集 一	宝塚市歯科医師 会副会長
12	監 事	柴 崎 崇	宝塚法律事務所 弁護士
13	監 事	平 井 利 文	宝塚市 会計管理者

	名 前	備 考
1	一 圓 光 彌	関西大学 政策創造学部 名誉教授
2	今 西 則 行	宝塚さざんか福祉会 常務理事
3	酒 井 勝 宏	宝塚市 健康福祉部長
4	須 藤 実 枝	宝塚市自治会 連合会理事
5	○ 竹 谷 輝 男	元宝塚市 社会教育委員
6	○ 村 山 眞 子	宝塚市老人 クラブ連合会会長
7	松 藤 聖 一	こむの事業所 代表理事
8	山 田 精 一	聖隷福祉事業団 執行役員
9	和 田 縉 市 朗	宝塚さくら福祉会 理事長

○  
苦情解決第三者委員

## (2) 職員人数

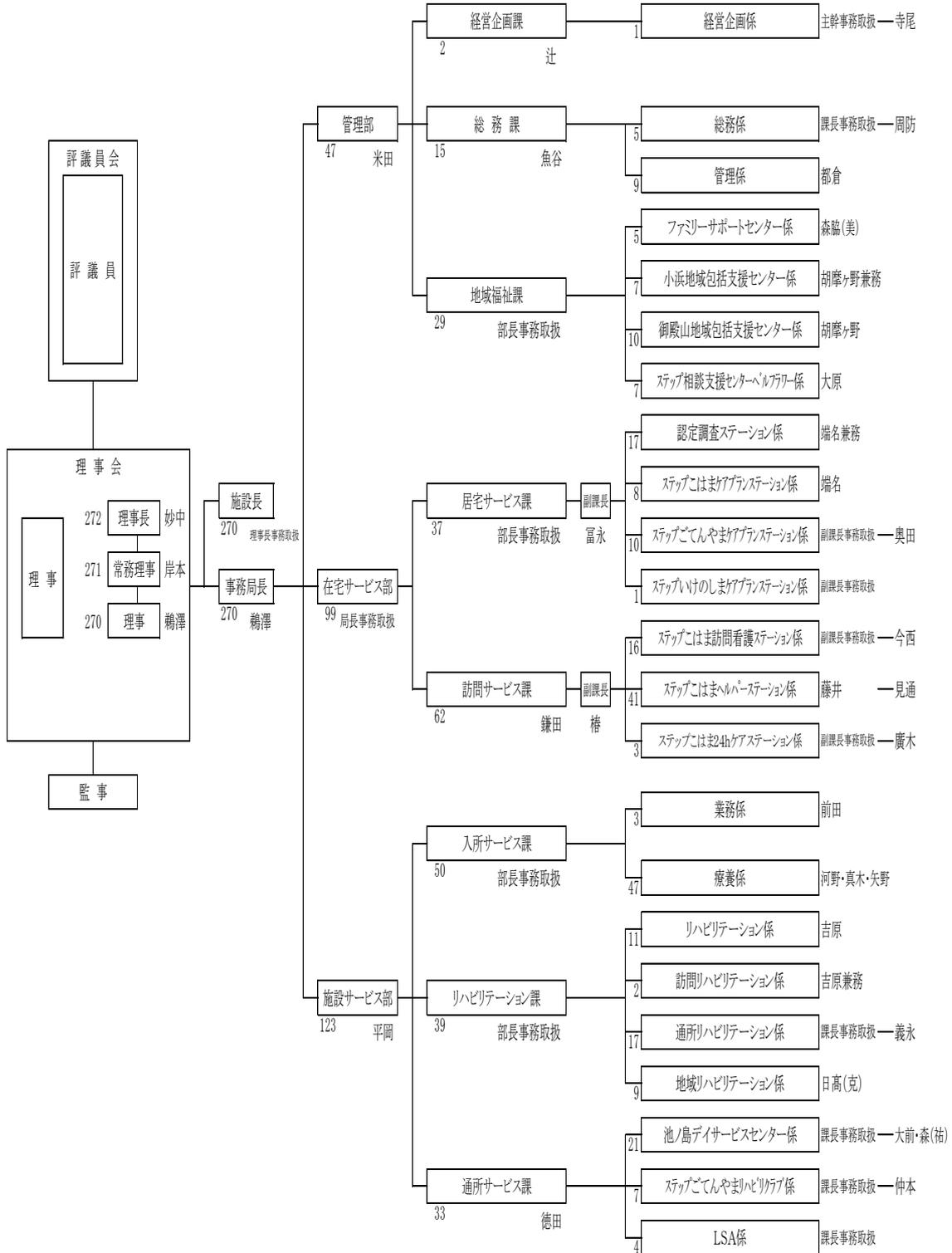
2019年3月31日現在

(単位:人)

	理事長	事務局	部長	課長(主幹含む)	副課長	係長	主任	再雇用	正規職員	臨時職員	合計	構成比
事務職		2	1	2		3	3		10	9	30	11.0%
医師	1										1	0.4%
看護師				1			2	3	13	16	35	12.8%
理学療法士				1		2			5	5	13	4.8%
作業療法士									4	2	6	2.2%
言語聴覚士									1	1	2	0.7%
介護職			1		1	3	4	2	25	74	110	40.3%
介護支援専門員					1		1		4	34	40	14.6%
相談員						4			10	3	17	6.2%
管理栄養士									1		1	0.4%
運動指導員										4	4	1.5%
設備										2	2	0.7%
保安										1	1	0.4%
清掃										6	6	2.2%
運転手										5	5	1.8%
合計	1	2	2	4	2	12	10	5	73	162	273	
構成比	0.4%	0.7%	0.7%	1.5%	0.7%	4.4%	3.7%	1.8%	26.7%	59.4%		

(3) 組織図

2019年3月31日現在



### 3. 組織及び職員に関する事項

#### (1) 役員

(理事・監事)

	役員の種類	名 前	備 考
1	理 事 長	妙 中 信 之	ステップハウス 宝塚施設長
2	常務理事	岸 本 和 夫	公社常務理事
3	理 事	明 石 章 則	宝塚市 病院事業管理者
4	理 事	稲 野 廣	宝塚市社会福祉 協議会理事長
5	理 事	今 井 信 行	宝塚市医師会
6	理 事	鵜 澤 靖	公社事務局長
7	理 事	島 田 康 治	宝塚障害福祉 市民懇談会会長
8	理 事	辻 田 智 子	宝塚市介護者 家族の会かなえ の会会長
9	理 事	福 住 美 壽	宝塚市民生委員 ・児童委員連合 会会長
10	理 事	松 井 眞 理 子	宝塚市薬剤師会 副会長
11	理 事	山 岡 集 一	宝塚市歯科医師 会副会長
12	監 事	柴 崎 崇	宝塚法律事務所 弁護士
13	監 事	平 井 利 文	宝塚市 会計管理者

2019年3月31日現在

(評議員)

	名 前	備 考
1	一 圓 光 彌	関西大学 政策創造学部 名誉教授
2	今 西 則 行	宝塚さざんか福祉会 常務理事
3	酒 井 勝 宏	宝塚市 健康福祉部長
4	須 藤 実 枝	宝塚市自治会 連合会理事
5	○ 竹 谷 輝 男	元宝塚市 社会教育委員
6	○ 村 山 眞 子	宝塚市老人 クラブ連合会会長
7	松 藤 聖 一	こむの事業所 代表理事
8	山 田 精 一	聖隷福祉事業団 執行役員
9	和 田 縉 市 朗	宝塚さくら福祉会 理事長

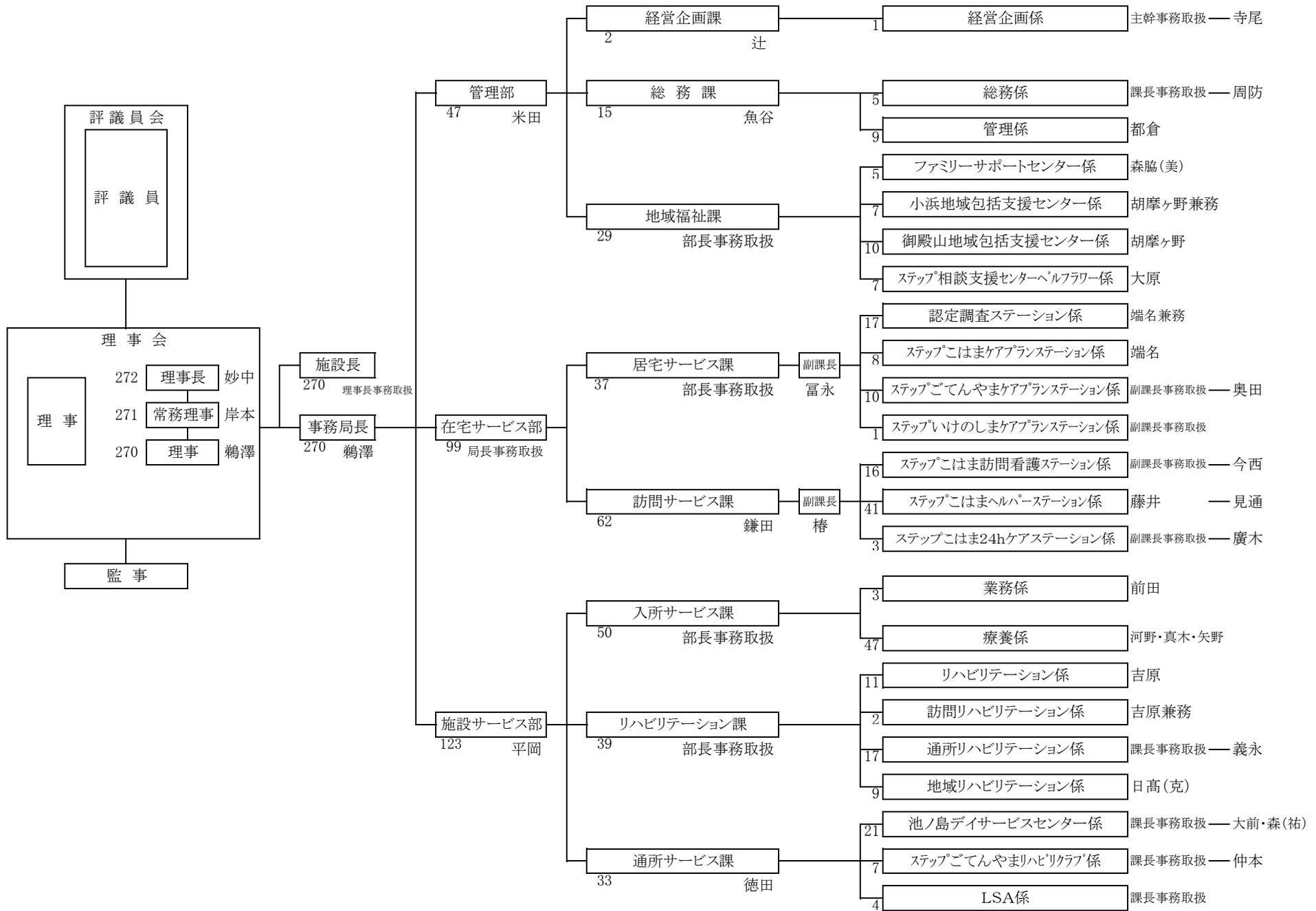
○  
苦情解決第三者委員

## (2)職員人数

2019年3月31日現在

(単位:人)

	理事長	事務局	部長	課長(主幹含む)	副課長	係長	主任	再雇用	正規職員	臨時職員	合計	構成比
事務職		2	1	2		3	3		10	9	30	11.0%
医師	1										1	0.4%
看護師				1			2	3	13	16	35	12.8%
理学療法士				1		2			5	5	13	4.8%
作業療法士									4	2	6	2.2%
言語聴覚士									1	1	2	0.7%
介護職			1		1	3	4	2	25	74	110	40.3%
介護支援専門員					1		1		4	34	40	14.6%
相談員						4			10	3	17	6.2%
管理栄養士									1		1	0.4%
運動指導員										4	4	1.5%
設備										2	2	0.7%
保安										1	1	0.4%
清掃										6	6	2.2%
運転手										5	5	1.8%
合計	1	2	2	4	2	12	10	5	73	162	273	
構成比	0.4%	0.7%	0.7%	1.5%	0.7%	4.4%	3.7%	1.8%	26.7%	59.4%		



## 4 事業の実施に関する事項

### (1) 在宅の高齢者等に対する保健福祉サービスに関する調査研究等

- ア 保健福祉サービスに対するニーズの把握及び関係機関との調整を行った。
- ・宝塚市介護保険事業者協会 各部会・定例会、研修会、フォーラム等への参加
  - ・宝塚市訪問看護事業運営協議会事務局として他訪問看護ステーション・医師会との意見交換や連絡調整の実施（ステーション会議12回・運営協議会2回）
  - ・宝塚在宅医療交流会、宝塚緩和医療連絡協議会への参加
  - ・宝塚市地域において活動する介護保険、医療保険関係者の協会に加入する等随時、保健福祉関係団体との連絡調整を実施

### イ 職員全体研修

- ・第1回 平成30年7月18日、20日 ビデオ上映研修会  
「“あなたらしさ”はここにある」  
参加人数49名
- ・第2回 平成30年11月15日、16日 ビデオ上映研修会  
「在宅死“死に際の医療”200日の記録」  
参加人数60名
- ・第3回 平成31年2月15日  
接遇「福祉・介護従事者として生業の特徴を理解して、マナーの向上につとめ仕事に役立てる」  
講師：貝塚 誠一郎氏（貝塚ケアサービス研究所代表）  
参加人数62名

### (2) 在宅の高齢者等に対する保健福祉サービスに関する知識の普及啓発

#### ア 広報「たからづか」への掲載

- ・育児ファミリーサポートセンター  
講習会開催について（テーマ）  
5月号 子育て支援をしたい人 春の講習会  
10月号 子育て支援をしたい人 秋の講習会  
2月号 子育てを手伝ってと言って良かった サポートして良かった
- ・介護ファミリーサポートセンター  
案内と会員募集について  
9月号

- ・介護職員初任者研修過程（旧ホームヘルパー2級養成研修）  
4月号、8月号

- ・訪問型サービスA事業従事者養成研修  
12月号、2月号

イ 公社広報誌

- ・「えがお」No. 47の発行 平成30年11月  
特集「サマーフェスタに出店しました」
- ・「えがお」No. 48の発行 平成31年3月  
特集「介護を考える市民フォーラム『終活劇』」

ウ 講習会の開催

- ・ファミリーサポートセンター事業関連の講習会等
- ・介護ファミリーサポートセンター事業関連の講習会等

(3) 介護技術等研修事業

ア 地域に出かけるヒューマンケア講座

- ・御殿山地域包括支援センターの介護・健康教室
- ・小浜地域包括支援センターの介護・健康教室

イ 介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級養成研修）

10期 平成30年5月14日（月）～平成30年7月31日（火）

応募者5人未満のため中止

11期 平成30年9月10日（月）～平成30年12月4日（火）

受講生9名

ウ 訪問型サービスA事業従事者養成研修

1月開講 受講生 7名

2月開講 受講生 12名

#### (4)ステップこはま訪問看護ステーション

訪問看護は、住み慣れた地域や自宅で安心して療養が送れるよう訪問看護師やリハビリの専門職が訪問し、専門家の目で見守りお一人お一人の状態に合わせた看護・リハビリを提供しています。

##### 1. 運営

平成 30 年度は、事業規模の縮小、人材不足、質の高いサービスの維持を課題に「堅実な経営を維持し、働きやすい職場をつくる」を目指してやってきました。今年度は計3名の退職者がありましたが、6月と翌3月には新人看護師を迎えることができました。新人職員を迎え、経験3年未満の常勤職員が半数以上を占める若いステーションとなりました。

経営面では、最終的に黒字を維持することができました。サービスの質では情報共有と対応の速さを強みとして、ステップこはまヘルパーステーション、ステップ 24h ケアステーションと連携した看取りの機会が増えました。今後も連携の強みを生かし看取りの質の向上を目指していきます。

また、今年度は利用者満足度調査、ステーション緊急電話の内容のデータ分析を行いました。

##### 2. 地域活動

市民に向けては、サロンに出向き地域の介護予防に貢献しています(看護協会まちの保健室事業)。また、市立看護専門学校、神戸大学、大阪青山大学の看護学生や兵庫医科大学の医学生の実習支援も行いました。兵庫県下の訪問看護師の育成のお手伝いもしています(兵庫県看護協会の新人訪問看護師研修講師)。たからづか医療と介護がつながる会において、施設職員に対する「看取りについて」の研修会にも協力させていただきました。地域病院連携として、宝塚市立病院・宝塚リハビリテーション病院の病院看護師に対する在宅実習を受け入れました。

##### 3. 次年度にむけて

引き続き①働きやすい職場づくり、②職員一人一人の専門職としての質の向上、③健全な経営を目指していきます。

(別添資料1P)

#### (5)介護老人保健施設ステップハウス宝塚

ステップハウス宝塚では、介護老人保健施設の本来の役割である「在宅復帰支援」を使命とし、在宅復帰率 50%超の維持を目標に掲げ業務に取り組みました。また、入所・退所前後訪問を強化し、評価と計画書の作成・充実した専門的リハビリの提供・多職種を含めた生活機能向上プログラムを実施しております。稼働率については 96.9%となり目標に 0.1%及びみせんでしたが、超強化型老人保健施設としての算定基準を満たし1年間通して算定ができた事や、認知症短期集中リハビリ加算を2月から開始した事により増収となりました。

今後も利用者にとって、よりよい生活の場や環境における支援とともに、介護老人保健施設

の機能である在宅復帰支援に努めて参ります。

また、経年劣化による設備面、特に当面の問題である空調の更新については、宝塚市担当課を含め、管理係や業務係と協議し、より安全で快適な施設生活が提供できるよう努めて参ります。

(別添資料2P)

#### (6) 通所リハビリテーション

通所リハビリテーションは、心身機能の維持向上・介護負担の軽減を目標に、利用者個々の身体状況や生活に応じた個別のリハビリテーションを提供し在宅生活を支援しています。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3職種による個別リハビリテーションを提供している施設は少なく、また約50%の方が要介護3・4・5で男性の利用者が多いのが特徴です。(男性55%・女性45%)

2018年度より、リハビリテーションマネジメント加算Ⅱ以上の算定が始まり、利用者の目標に応じたリハビリテーションのプランの設定を行い、目標に応じて施設医や他事業所も交えたリハビリテーション会議の運営なども始まりました。利用者の自立支援への対応、プログラムも検討し必要に応じて適宜変更しています。

(別添資料2P)

#### (7) 訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーションは、在宅で生活する利用者の個々に応じたリハビリを提供し、利用者の心身機能の維持向上、介護予防に努めています。

地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携し、施設医の協力のもと理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による生活に密着したリハビリを実施しています。

また、2018年度の途中から、市立病院の地域医療室からの紹介による訪問リハビリの開始に至りました。

介護老人保健施設からの訪問リハビリの算定要件として、施設医の診察が必須になっています。診察のための利用者の送迎や、施設医に往診に行っていただくのは、時間的にも労力の面でも負担になってしまいます。介護老人保健施設入所時から在宅方向で訪問リハビリのニーズがある方は、早い段階から訪問リハビリに繋がるように、スタッフおよび施設ケアマネジャーや相談員とも連携を取るようになっています。

また、他事業所からも訪問の相談を受けることがあり、サービス付高齢者住宅の訪問利用者への対応等から新規利用者への訪問につながったケースもあります。

今後も、公社内外の事業所と情報を共有・連携を取りながら、個別のニーズに対応し在宅生活を支援して参ります。

(別添資料2P)

#### (8) ステップごてんやまケアプランステーション

ステップごてんやまケアプランステーションの事業目標として、各職員が『伝える力・聞き取る力』を養うことを意識して、朝礼やミーティングで各担当ケースの情報共有や事例提供を行い、居宅として利用者・家族への相談支援が行える様に事前準備を行いました。

また、各職員の業務内容を振り返り、習慣化されている業務の見直しに取り組みました。

今後も良質なサービス・ケアマネジメントを提供するために、常に再アセスメントするための事前準備を行い、思いやりと寄り添いの気持ちを持って言葉を大切に使い、地域や事業所から選ばれる居宅を目指します。

(別添資料3P)

#### (9) ステップこはまケアプランステーション

本年度のステップこはまケアプランステーションの目標として、スタッフ間のコミュニケーションを大切に、関係機関等への丁寧な対応を行い、利用者から信頼される事業所を目指して業務に取り組みました。そのための取り組みとして、毎週ミーティングでの事例の共有を行い、担当ケアマネジャーが孤立しないような体制づくりを行いました。又、ケアマネジャーとしての更なるレベルアップができるよう研修へ自主的に参加し、一人ひとりのスキルアップを図ることで事業所全体でもレベルアップを図りながら関係機関との連携が取れるよう努めました。

次年度は、業務改善に繋がるように他者の業務にも関心を持って業務できるような取り組みを行い、利用者や事業者から今年度以上に信頼される事業所になるよう連携を深めていきます。

(別添資料4P)

#### (10) ステップいけのしまケアプランステーション

ステップいけのしまケアプランステーションはケアマネジャー5名体制で活動していました。少人数の事業所だからこそ、他のケアマネジャーの動きもわかり、協同しながら利用者支援に取り組んでいました。

本年度末に、こはま・ごてんやまケアプランステーションに統合されることとなりました。各利用者様には十分に説明をさせていただき、各事業所様にもご理解いただき、スムーズな統合を行うことができました。

(別添資料5P)

#### (11) ステップこはまヘルパーステーション

ステップこはまヘルパーステーションは、365日 7:00 から 23:00 の営業で、訪問介護員 34 人(内、介護福祉士 25 人) サービス提供責任者 6 人と管理者、事務員の体制で運営しています。

事業内容は、介護保険事業、障害福祉サービス事業、その他、子育て支援の産後ヘルパ

一、養育支援、自費サービスです。

3月のさかせがわヘルパーステーションの閉鎖に伴い1つの事業所にまとめ、移管した利用者も増え、皆で一丸となり日々の業務に取り組んで参りました。

介護保険事業の利用状況は、定期巡回随時対応型訪問介護看護サービスとの兼務を行う事により、スタッフ一人一人のスキルアップにも繋がっています。

新たに相談を受けた利用者に関しては、積極的に受け入れ月平均992回訪問し、前年度より訪問件数も増となっています。

また、月単位でのシフト作成を導入し効率化を図っていますが、全体的に常勤の事務量も多く、更なる事務の効率化を図り残業時間の縮小に努めていきます。

事務効率の改善、常勤の稼働率改善、新規獲得に努め安定した経営状況に近づけるように努めて参ります。

(別添資料6P)

#### (12)池ノ島デイサービスセンター

平成30年度は大規模の通所介護事業所にとっては実質マイナス改定となる介護保険報酬改定がなされ、先行きが不安な中でのスタートとなりました。改定の影響がサービス面に出ないように職員間で話し合い、人員配置や業務効率の向上に取り組んでまいりました。

また、ケア面においては昨年からの目標である体調管理のできるデイサービスを目指すべく、介護、看護、リハビリで協力しながら心身機能の維持、向上に努めました。

ご利用者様の満足の向上のための月々のイベント等は創意工夫して取り組みました。

平成30年度の実績は利用延べ総人数10,699人、1日平均利用者数34.9人と目標数値には至りませんでした。人員不足の影響もあり新規利用者の受け入れができなかったこと、冬季の体調不良等による利用休止が重なったため、このような結果になったと思われま

す。次年度は上記の結果を鑑み通常規模へ変更することとしました。事業効率の向上に努めつつ、快適な在宅生活・在宅介護を支援していけるよう取り組んでまいります。

(利用できる方)

介護保険法に基づく要介護認定において要支援1,2 要介護1~5の認定を受けられた方  
(別添資料7P)

#### (13)ステップごてんやまりハビリクラブ

本年度は昨年度に引き続き17.8名の目標を掲げて運営してまいりましたが目標には及びませんでした。介護報酬の単価引き下げも大きなダメージとなりました。

年間延べ人数に関しては昨年度の5,389名に対し4,994名と約400名の減となりました。要因としては登録者数の減、ご利用者様の長期入院、体調不良による当日欠席、気象状況の影響による営業中止等が挙げられます。

昨年度の秋以降 2 ヶ月の登録枠を撤廃するとともに 11 名定員の整備に務めてきました。11 名の利用実績もあり、スタッフで受け入れ状況の準備も特に大きな支障なく対応できました。31 年度においても継続していきます。収入に大きく左右される要支援:要介護の比率に関しては昨年度 5.5:4.5 にて推移していましたが、31 年 1 月頃から要介護利用者が増加傾向にあり、現状は 4.9:5.1 にて経過しています。11 名枠と要介護利用者との兼ね合いを重要視しながら受け入れの体制を準備していきます。

また、今年度も秋頃を目安にご利用者様への満足度調査を実施し、ニーズ把握に努めてまいります。

また、地域への関わりとして運営推進会議の実施、隣接するあゆみ保育園との交流会も計画していきます。特にあゆみ保育園との関わりに関しては 30 年度、数多くの交流を図る事ができました。来年度も地域に開けたデイサービスになれるような取り組みを継続していきたいと考えています。

(別添資料 8P)

#### (14) ステップこはま 24h ケアステーション

宝塚市内初の定期巡回・随時対応型訪問介護看護として事業開始してから 3 年が過ぎ、兵庫県下でも中堅事業所になりました。今年度は、兵庫県定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業者連絡協議会『兵庫あんしんネット 24』が発足し、兵庫県下でも引き続き定期巡回の普及や技術向上に向け活動しています。当事業所の担うところとして、右岸事業所の清光苑管理者と共に、定期巡回の拡大について宝塚市に働きかけを行いました。また、両事業所間での情報共有を深める機会を作り、定期巡回の必要性について周知活動等協力体制をとっていく事を互いに認識できた良い機会でした。

新規受け入れは、月平均 1~2 名獲得し利用者数は平均 18 名でした。法人外居宅介護支援事業所からの申込みや利用者も増えてきています。新規受け入れに関する調整は、引続き訪問介護事業所と訪問看護事業所の受け入れ状況に影響される事には変わりありません。

当事業所の業務見直しの会議『キックオフミーティング』開催を経て、引続き事務作業の効率化、事務負担感の軽減に努め、より利用者へのサービス還元とスタッフのモチベーションを維持向上できるよう努めていきます。

(別添資料 9P)

#### (15) 御殿山地域包括支援センター

御殿山地域包括支援センターは、市からの受託事業として第 3 地区の高齢者の総合相談窓口として、また、地域包括ケア推進の中心的役割を担う機関として設置されています。

平成 30 年度も、多様な相談に対し本人主体を重視しながら、家族、民生委員、自治会、ボランティアなどの地域住民や地域住民組織、商業施設、介護保険サービス事業所、社会福祉協議会等の関係機関、行政機関と連携して支援を行いました。

地域の見守りが必要な事例や支援困難な事例について、多様な主体が参加する地域ケア会議を開催しました。また、地域の支え合い、見守り活動、地域ネットワーク構築を進めるため、積極的に地域活動組織の会議に参画しました。また、民生委員との関係強化のため、民生委員、地区センターと共催で、交流会を二回開催しました。

認知症サポーターと専門職の有志によるグループ(宝塚オレンジロボネットワーク)に参画し、認知症理解・啓発を目的とした活動を行いました。具体的には、3回シリーズの参加型講座、ダイエー店員向けの講座、コープこうべにてキッズ向けの講座、フレミラ祭にて子どもを対象にした啓発活動、専門職と住民の交流会等を展開しました。また、センターとして認知症サポーター養成講座を、フォルクスワーゲン、ローソン(中山ちどりと協力)、ソリオ北山手商店会(阪神北県民局と協力)向けに開催しました。

ケアマネジャー支援として、市と共催で研修、地区別活動の形で3・4・7地区のケアマネジャーの定期交流会、担当地区の主任ケアマネジャーと協力して「気づきの事例検討会」を開催し、スキルアップとネットワーク構築、支援体制づくりを図りました。また、個別にケアマネジャーからの相談を受け、地域の社会資源や制度などの情報提供、支援内容検討の協力、サービス担当者会議への参加など行いました。

権利擁護(虐待、消費者被害、成年後見制度)について、市、権利擁護支援センター、三職種、他機関との連携を密に取り対応しました。昨年度、市とともに作成した「事業所等向け高齢者虐待発見・防止のための手引き」を用い、3・4・7地区合同で事業所を交えた虐待研修を開催しました。センター職員の対応力向上として、高齢者虐待対応力向上研修受講、成年後見制度勉強会に参加しました。

その他、地域の方々に予防的、主体的な対応力をもつていただくため、サロンやミニデイ、老人会、自治会などに積極的に出向き、介護予防や権利擁護に関する情報発信、健康相談等を行いました。公社が行う体操プログラムやいきいき百歳体操等の運動プログラムの提案、活動運営支援なども行いました。

(別添資料10～11P)

#### (16)小浜地域包括支援センター

小浜地域包括支援センターは、市からの受託事業として第4地区の高齢者の総合相談窓口として、また、地域包括ケア推進の中心的役割を担う機関として設置されています。

平成30年度も、地域の民生委員・児童委員との情報交換会の実施やまちづくり協議会、自治会などの地域住民や組織、介護保険サービス事業所、社会福祉協議会等の関係機関、行政機関と連携して相談援助活動等の支援を行いました。また、地域のネットワークの基盤である民生委員・児童委員との関係強化を図るため、地域の情報や課題の共有を行う交流会を合計4回実施しました。

地域住民に向けての活動では「いきいき百歳体操」の新規グループへの立ち上げサポートや既存グループへの月1回のフォローや地域のサロンでの健康講座を行いました。その他、

公社が行う体操プログラムの紹介、社会福祉協議会との連携を図り、介護予防の推進に積極的に取り組みました。まちづくり協議会と防災訓練を共同して実施しました。

認知症に関する取り組みとして、SOSネットワークにおける地域ケア会議等の積極的な会議の開催や、昨年度に続き、美座小学校と小浜小学校の4年生や地域住民を対象に「認知症サポーター養成講座」や認知症に関する講話を通し、認知症理解への啓発を行いました。

ケアマネジャー支援として、「気づきの事例検討会」、地区別活動の形で3・4・7地区のケアマネジャーの定期交流会を開催し、ケアマネジャーのスキルアップとネットワーク構築、支援体制づくりを図りました。また、個別にケアマネジャーからの相談を受け、地域の社会資源や制度などの情報提供、同行しての支援などの協力など行いました。

権利擁護(虐待、消費者被害、成年後見制度)について、市、権利擁護支援センター三職種、他機関との連携を密に取り対応しました。3.4.7地区のデイサービス、ヘルパー事業所、住宅改修事業者向けに「虐待早期発見、防止」の講座を10月に、介護保険事業所、居宅支援事業所へは11月に開催しました。対応力向上として、高齢者虐待対応力向上研修受講、成年後見制度勉強会に参加しました。

機関誌『ぱらそる』は、昨年度同様に2ヶ月に1回の発行を継続しており、地域住民や自治会、老人会、商業施設、関係機関、病院・開業医、調剤薬局などに向け、包括の周知・地域包括ケアシステム、訪問看護、認知症、防災をテーマとし作成、配布しました。

(別添資料12～13P)

#### (17) 視察等受入状況

##### ア) 視察・施設見学内容

###### ステップハウス宝塚

5月	一般社団法人宝塚市薬剤師会(学生)	6人
6月	伊丹東有岡婦人会	17人
8月	一般社団法人宝塚市薬剤師会(学生)	8人
8月	民生高年福祉部会	10人
11月	一般社団法人宝塚市薬剤師会(学生)	6人
2月	北山議員後援会	50人
2月	一般社団法人宝塚市薬剤師会(学生)	8人
計 7件		105人

##### イ) 実習・体験学習受入内容

###### ステップハウス宝塚

4.10～ 4.13	自衛隊阪神病院准看護学院(看護)	4人
4.17 ～ 4.20	自衛隊阪神病院准看護学院(看護)	4人

4.24 ~ 4.27	自衛隊阪神病院准看護学院(看護)	5人
5.9 ~ 5.23	宝塚市立看護専門学校(看護)	5人
5.23 ~ 5.27	宝塚市立宝塚中学校「トライやるウィーク」	1人
5.30 ~ 6.13	宝塚市立看護専門学校(看護)	5人
6.20 ~ 7.4	宝塚市立看護専門学校(看護)	5人
7.2 ~ 7.6	神戸親和女子大学(教職課程)	1人
7.11 ~ 7.25	宝塚市立看護専門学校(看護)	5人
7.20・7.27	権利擁護支援者養成講座実習	2人
7.26・7.30	権利擁護支援者養成講座実習	2人
9.19 ~ 10.3	宝塚市立看護専門学校(看護)	5人
9.26 ~ 9.28	神戸大学医学部	1人
10.17 ~ 10.31	宝塚市立看護専門学校(看護)	4人
10.23 ~ 10.31	介護職員初任者研修	5人
11.15	権利擁護支援者養成講座実習	2人
11.22	権利擁護支援者養成講座実習	2人
12.11 ~ 12.15	武庫川女子大学(教職課程)	1人
1.4 ~ 1.11	宝塚市立看護専門学校(看護)再実習	1人
1.15 ~ 1.21	大阪コミュニティワーカー専門学校(介護)	2人
2.13 ~ 2.18	大阪コミュニティワーカー専門学校(介護)	2人
2.13 ~ 2.14	甲南女子大学(理学療法士)	2人
3.13 ~ 3.14	神戸女子大学(管理栄養士)	1人
計 23 件		67人

ステップこはま訪問看護ステーション

5.15 ~ 5.17	宝塚市立看護専門学校	1人
5.22 ~ 5.24	大阪青山大学(看護)	3人
5.28 ~ 5.31	大阪青山大学(看護)	3人
6.4 ~ 6.7	宝塚市立看護専門学校	2人
6.11 ~ 6.14	神戸大学医学部	2人
6.15	神戸大学医学部	2人
6.18 ~ 6.20		
6.25 ~ 6.28	宝塚市立看護専門学校	1人
7.3 ~ 7.5	大阪青山大学(看護)	2人
7.9 ~ 7.12		
7.17 ~ 7.20	宝塚市立看護専門学校	2人

9.3 ~ 9.6	在宅論看護実習	2人
9.11 ~ 9.26	在宅論看護実習	3人
9.25 ~ 9.28	在宅論看護実習	2人
2.4 ~ 2.5	宝塚リハビリテーション病院(看護師)	1人
2.20~2.21 2.25~2.26	兵庫医科大学	2人
3.13 ~ 3.14	宝塚リハビリテーション病院(看護師)	1人
計 15 件		29人

ステップこはまヘルパーステーション

10.23 ~ 11.9	介護職員初任者研修	9人
1.17 ~ 1.24	宝塚市認定生活支援ヘルパーA型研修	7人
3.4 ~ 3.11	宝塚市認定生活支援ヘルパーA型研修	12人
計 3 件		28人

ステップこはまケアプランステーション

5.10 ~ 5.11	宝塚市立看護専門学校	1人
7.12 ~ 7.13	宝塚市立看護専門学校	1人
8.30 ~ 8.31	宝塚市立看護専門学校	1人
9.20 ~ 9.21	宝塚市立看護専門学校	1人
10.18 ~ 10.19	宝塚市立看護専門学校	1人
計 5 件		5人

ステップごてんやまケアプランステーション

9.20 ~ 9.21	宝塚市立看護専門学校	1人
計 1 件		1人

ステップいけのしまケアプランステーション

10.18 ~ 10.19	宝塚市立看護専門学校	1人
計 1 件		1人

小浜地域包括支援センター

5.8 ~ 5.9	宝塚市立看護専門学校	1人
5.29 ~ 5.30	宝塚市立看護専門学校	1人

7.10 ～ 7.11	宝塚市立看護専門学校	1人
9.18 ～ 9.19	宝塚市立看護専門学校	1人
10.16 ～ 10.17	宝塚市立看護専門学校	1人
計 5 件		5人

#### 御殿山地域包括支援センター

5.29 ～ 5.30	宝塚市立看護専門学校	1人
6.19 ～ 6.20	宝塚市立看護専門学校	1人
7.10 ～ 7.11	宝塚市立看護専門学校	1人
7.23 ～	日本福祉大学	1人
8.29 ～ 8.30	宝塚市立看護専門学校	1人
9.1 ～ 10.31	日本福祉大学	1人
9.18 ～ 9.19	宝塚市立看護専門学校	1人
10.16 ～ 10.17	宝塚市立看護専門学校	1人
計 8 件		8人

#### 通所型介護予防事業

5.12	宝塚市立看護専門学校	1人
5.13	宝塚市立看護専門学校	1人
計 2 件		2人

#### (18)シルバーハウジング生活援助員派遣事業

当事業は、宝塚市からの受託事業で、緊急通報システム付きのシルバーハウジングを生活援助員が毎日巡回訪問し安否確認を行っています。

入居者の高齢化は変わらず、自治管理は困難な状況で相談援助も増えてきており、包括支援センター、担当ケアマネジャーとの連携を随時行っています。

また、H27年度よりSCSから依頼の福井住宅2件の訪問も引き続き行っております。

緊急通報システム装置本体の入れ替えが終了し、一時入居者の不慣れもあり対応が必要でしたが現在は問題なく稼働しています。

体操の会、LSA主催のレクリエーションは継続して行っております。

地域交流会

\*池ノ島第2住宅・泉町住宅他「ゆのゆの水曜会」

第1・3水曜日体操(運動指導員) 第2・4水曜日レクリエーション(LSA)

(別添資料14P)

#### (19)ファミリーサポートセンター事業

ファミリーサポートセンター(育児)事業は、宝塚市からの受託事業で、子育て中の家庭を支えるため、仕事と家庭両立支援特別援助事業として、「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」がお互い会員となって地域において相互援助活動を行っています。

平成 28 年より、アドバイザー3 人制で月曜日から土曜日の週 6 日を開所とし、必要とされるサポートを伺い、お困りのどの部分をサポートできる方へ依頼するかを一緒に考え、きめ細やかな対応を心がけ運営しております。

最近の傾向としましては、市内に保育所、学童保育が充実してきたことにより、件数は少し減っていますが、産後の職場復帰の子育てサポートや発達障がいをもったお子さんの送迎等の依頼、そして勤務形態の多様化から日・祝日にお仕事に出る方が多くなった為、日曜日や祝日の依頼も増えております。

活動料金(報酬)は下表を基準とした有償ボランティアであり、交通費については実費、その他かかった費用についても依頼会員が支払います。

#### ○活動報酬

内容	1 時間当たりの報酬額
基本時間 7:00~20:00	700 円
上記時間以外	900 円
軽度の病気	900 円

※なお、ひとり親家庭等でファミリーサポートセンター事業を利用した場合は、利用料の一部が宝塚市より助成されます。

#### ○会員

**依頼会員**・・・宝塚市在住、在勤及び伊丹市、川西、猪名川町、三田市在住で 0 才から小学 6 年生の子どもがいる人

**提供会員**・・・子どもの好きな人、育児経験のある人

**両方会員**・・・提供と依頼のどちらでもできる人

(別添資料15~16P)

#### (20)介護ファミリーサポートセンター事業

ファミリーサポートセンター(介護)事業は、宝塚市からの受託事業であり、高齢者等に対する簡易で補助的な援助を行う会員同士の相互援助活動です。

援助内容は、高齢者等が日常生活を送る上で、なんらかの手助けがあれば地域で自立して生活できる際の援助、病気怪我などの際の援助、その他センターで認める範囲内で必要な援助を行います。

最近では介護保険で対応できない同居家族の居る世帯の援助や、認知症の方の見守り等

の活動が増えています。事務所への問合せ先としましては、各地域包括支援センターやケアマネジャーからの依頼が一番多く、次にご家族から直接電話での問い合わせも増えてきました。

利用料金(報酬)は下表を基準とした有償ボランティアであり、交通費については、実費、その他かかった費用についても依頼会員が支払います。

#### ○活動報酬

活動時間	1時間あたりの報酬額
基本時間 7:00 ~ 20:00	700 円
上記時間以外	900 円

**年会費**・・・依頼会員は年会費が必要。入会時および年度ごとの更新時に、4月～翌年3月分の会費として3,600円。10月～3月の間に新規入会された方は、その年度に限り年会費を半額(1,800円)とする。

#### ○会員

**依頼会員**・・・市内に住んでいる概ね65歳以上の高齢者で援助が必要な方

**提供会員**・・・依頼会員の要望に応じて、介護に関する相互援助活動を行いたい方  
(別添資料17P)

#### (21)言語訓練事業(話学会)

当事業は、宝塚市からの受託事業で言語療法士が主体となり集団での言語療法を行っています。また会場責任者として理学療法士・作業療法士が同席しています。

平成30年度は登録者が1名減7名となりました。実際の参加者数は7名～3名と幅があり、平均は5名となっています。2019年度もサービスを必要とされる方に利用していただけるよう関係各所に働きかけるとともに、円滑、安全に運営できるよう努めてまいります。

(利用できる方)40歳以上の者で脳血管障害後遺症などにより言語障害を有する者で医療終了後も言語訓練が必要な方

(会場)市内1会場において実施

火(1回/月):総合福祉センター

(別添資料18P)

#### (22)介護予防普及啓発事業(いきいき百歳体操)

当事業は、宝塚市の事業で高知県高知市発祥の介護予防運動「いきいき百歳体操」を地域住民が主体となって取り組んでいただく事業であり、運動の指導と管理の為に理学療法士・

作業療法士と看護師を派遣しています。

平成 30 年度は会場数も 102 会場から 25 会場増え、127 会場となりました。宝塚市としては市内 160 か所を目標としており、今後も会場数の増加が予想されます。また、既存のグループに対しても定期的にサポートを実施しており、宝塚市高齢福祉課、各地域包括支援センターと協力し、介護予防事業を安全かつ効率的に運営できるよう努めてまいります。

(利用できる方)

市内在住の 65 歳以上の高齢者及びその支援のための活動に関わる者を対象とします

(別添資料18P)

(23)ステップはつらつ体操教室

当事業は、はつらつ高齢者の会事業の受け皿事業(高齢者のための体操教室)として平成 27 年度 7 月より 4 会場で開始しました。運動指導のために運動指導員と理学療法士・作業療法士を派遣しています。平成 30 年度は 10 会場で実施しています。現在 123 名の方が登録され介護予防に取り組んでおられます。次年度も宝塚市の介護予防の一翼を担えるよう努めてまいります。

(別添資料18P)

(24)認定調査ステーション

宝塚市から委託を受け「事務受託法人」として要介護認定を受けようとする介護保険被保険者に対して、市内全域の新規申請者及び担当地域の更新・区分変更申請者の認定調査業務、更には今年度から新たに西谷地区の更新申請者の調査も実施しました。又、市外地に住所があり、宝塚市にお住まいの方々の更新申請にも積極的に対応しています。

今年度も介護保険制度の導入部分としての機能をしっかりと果たすため、調査を受けられる方やそのご家族さまなどにわかりやすい説明や対応を実施しました。また、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携を図り、より円滑な介護サービスの導入につながるよう訪問調査を実施しました。認定調査員全員に対しては認定調査員同士での同行研修の実施を行い、厚生労働省の認定調査員研修である e-ラーニングの実施や、宝塚市の認定調査員研修などに積極的に参加し、個々のスタッフの能力向上に取り組みました。

来年度も利用者に親切で丁寧な対応を行えるよう今年度以上に接遇を意識した調査を行ってまいります。

(別添資料19P)

(25)ステップ相談支援センター ベルフラワー

業務を開始してから 2 年目となり、新たに一般相談支援事業所としての業務が加わった 1 年でした。宝塚市自立支援協議会にまつわる運営の一部へも参画することとなり、特定相談

支援事業所の相談員向け研修の担当事業所として、研修の運営企画を行うとともに、自立支援協議会のこども部会にも事務局のサブ担当事業所として出席してまいりました。ただ、今年度は地域移行、地域定着の相談支援の対応はありませんでした。

特定相談支援事業所としての動向では、新規相談を絶えず受け付けている状況でしたが、年度途中で職員体制が整わない事態が生じ、泣く泣く新規相談に制限をかけていくこととなり市民の皆様にはご迷惑をおかけすることとなりました。対応させていただく方々に対しては、定期モニタリング以外にも、計画変更が必要な時には適切なタイミングで相談応対させていただくよう努めていきました。

現在、宝塚市としても基幹相談支援センターの設置、地域拠点の整備といった重点施策を実行すべく課題整理や実務に取り掛かられています。ベルフラワーとしましても、その動向に沿って一般相談支援事業所としての機能、特定相談支援事業所としての機能を果たしてまいりたいと考えています。

(別添資料20P)

平成30年度  
決算報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

一般財団法人宝塚市保健福祉サービス公社

# 正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

一般財団法人 宝塚市保健福祉サービス公社

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	85,445	100,105	△ 14,660
基本財産受取利息	85,445	100,105	△ 14,660
特定資産運用益	46,392	44,773	1,619
特定資産受取利息	46,392	44,773	1,619
受取会費	572,400	635,400	△ 63,000
事業収益	1,202,876,110	1,244,908,128	△ 42,032,018
受取補助金等	1,337,124	4,594,490	△ 3,257,366
受取助成金	0	1,850,000	△ 1,850,000
受取補助金	0	1,195,750	△ 1,195,750
受取補助金等振替額	1,337,124	1,548,740	△ 211,616
受取寄附金	53,000	153,000	△ 100,000
雑収益	4,943,817	4,026,695	917,122
経常収益計	1,209,914,288	1,254,462,591	△ 44,548,303
(2)経常費用			
事業費	1,165,231,706	1,220,750,600	△ 55,518,894
給料手当	446,146,014	439,303,803	6,842,211
臨時雇賃金	306,317,133	349,758,070	△ 43,440,937
法定福利費	115,373,106	119,647,789	△ 4,274,683
賞与引当金繰入額	37,718,190	47,987,122	△ 10,268,932
退職給付費用	32,012,577	30,336,420	1,676,157
福利厚生費	3,025,463	2,574,094	451,369
採用費	51,840	292,140	△ 240,300
職員被服費	208,772	1,403,310	△ 1,194,538
旅費交通費	549,010	703,874	△ 154,864
通信運搬費	9,295,809	9,909,177	△ 613,368
減価償却費	17,092,235	15,137,482	1,954,753
消耗品費	15,919,397	16,351,578	△ 432,181
医薬品費	4,273,976	4,784,011	△ 510,035
食糧費	1,821,176	2,008,660	△ 187,484
修繕費	2,952,147	2,971,191	△ 19,044
印刷製本費	1,207,557	1,002,334	205,223
燃料費	3,871,558	3,937,345	△ 65,787
光熱水料費	37,999,603	37,246,636	752,967
賃借料	28,579,691	31,874,416	△ 3,294,725
保険料	3,544,973	3,701,275	△ 156,302
支払負担金	59,000	59,000	0
諸謝金	116,334	157,348	△ 41,014
租税公課	5,961,911	5,485,667	476,244
報償費	180,000	180,000	0
委託費	85,729,483	89,378,428	△ 3,648,945
会議費	156,817	149,124	7,693
地域交流費	130,995	111,692	19,303
研修費	1,952,440	1,106,350	846,090
諸会費	728,080	742,000	△ 13,920
寄付金	2,740	0	2,740
渉外費	48,700	4,720	43,980
手数料	2,172,811	2,370,751	△ 197,940
雑費	32,168	74,793	△ 42,625
管理費	59,586,536	68,164,912	△ 8,578,376
役員報酬	4,927,000	4,983,380	△ 56,380
給料手当	28,001,253	27,059,594	941,659

# 正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

一般財団法人 宝塚市保健福祉サービス公社

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
臨時雇賃金	1,608,878	4,000,671	△ 2,391,793
法定福利費	2,679,292	3,144,538	△ 465,246
賞与引当金繰入額	1,077,898	1,337,846	△ 259,948
退職給付費用	914,116	974,259	△ 60,143
福利厚生費	416,140	470,601	△ 54,461
採用費	5,150,709	8,021,888	△ 2,871,179
職員被服費	40,954	79,142	△ 38,188
旅費交通費	94,510	97,090	△ 2,580
通信運搬費	159,520	70,228	89,292
減価償却費	93,591	73,799	19,792
消耗品費	375,108	953,917	△ 578,809
食糧費	0	18,328	△ 18,328
修繕費	99,961	546,659	△ 446,698
印刷製本費	264,409	459,146	△ 194,737
燃料費	7,460	12,618	△ 5,158
光熱水料費	167,251	265,445	△ 98,194
賃借料	573,721	1,589,175	△ 1,015,454
保険料	273,772	254,892	18,880
諸謝金	2,915,730	2,813,845	101,885
租税公課	2,471,089	2,581,014	△ 109,925
委託費	5,023,615	6,601,730	△ 1,578,115
研修費	414,940	829,344	△ 414,404
諸会費	211,540	303,080	△ 91,540
寄付金	18,904	0	18,904
渉外費	0	107,940	△ 107,940
手数料	1,248,576	422,829	825,747
支払利息	351,599	77,500	274,099
雑費	5,000	14,414	△ 9,414
経常費用計	1,224,818,242	1,288,915,512	△ 64,097,270
当期経常増減額	△ 14,903,954	△ 34,452,921	19,548,967
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
固定資産除却損	294,469	406,279	△ 111,810
その他臨時費用	379,539	643,570	△ 264,031
経常外費用計	674,008	1,049,849	△ 375,841
当期経常外増減額	△ 674,008	△ 1,049,849	375,841
税引前当期一般正味財産増減額	△ 15,577,962	△ 35,502,770	19,924,808
法人税、住民税及び事業税	82,000	82,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 15,659,962	△ 35,584,770	19,924,808
一般正味財産期首残高	288,688,764	324,273,534	△ 35,584,770
一般正味財産期末残高	273,028,802	288,688,764	△ 15,659,962
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 1,337,124	△ 1,548,740	211,616
当期指定正味財産増減額	△ 1,337,124	△ 1,548,740	211,616
指定正味財産期首残高	203,195,374	204,744,114	△ 1,548,740
指定正味財産期末残高	201,858,250	203,195,374	△ 1,337,124
III 正味財産期末残高	474,887,052	491,884,138	△ 16,997,086







科 目					小計	法人会計	内部取引 消去	合計
	ベルフラワー	御殿山地域包括	小浜地域包括	介護保険事業				
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	0	0	0	0	0	85,445		85,445
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	85,445		85,445
特定資産運用益	0	0	0	46,392	46,392	0		46,392
特定資産受取利息	0	0	0	46,392	46,392	0		46,392
受取会費	0	0	0	0	0	0		572,400
事業収益	26,407,653	49,814,171	34,101,626	1,128,921,706	1,128,921,706	0		1,202,876,110
受取補助金等	0	0	0	1,337,124	1,337,124	0		1,337,124
受取助成金	0	0	0	0	0	0		0
受取補助金	0	0	0	0	0	0		0
受取補助金等振替額	0	0	0	1,337,124	1,337,124	0		1,337,124
受取寄附金	153	102	51	53,000	53,000	0		53,000
雑収益	0	0	0	4,354,308	4,354,308	548,309		4,943,817
経常収益計	26,407,806	49,814,273	34,101,677	1,134,712,530	1,134,712,530	633,754		1,209,914,288
(2) 経常費用								
事業費	26,041,622	49,155,303	32,676,728	1,058,645,327	1,058,645,327	0		1,163,501,436
給料手当	10,831,709	21,557,198	17,838,149	407,273,530	407,273,530	0		446,146,014
臨時雇賃金	7,248,072	12,634,557	4,393,770	265,156,427	265,156,427	0		306,317,133
法定福利費	3,228,337	5,163,246	3,861,081	105,506,280	105,506,280	0		115,373,106
賞与引当金繰入額	739,639	1,808,206	1,474,501	35,079,477	35,079,477	0		37,718,190
退職給付費用	823,264	1,832,302	1,505,611	29,931,512	29,931,512	0		32,012,577
福利厚生費	47,673	123,997	76,729	2,680,348	2,680,348	0		3,025,463
採用費	0	0	0	0	0	0		51,840
職員被服費	24,612	0	14,688	188,976	188,976	0		208,772
旅費交通費	98,460	53,640	24,200	454,290	454,290	0		549,010
通信運搬費	383,091	740,689	393,525	7,845,906	7,845,906	0		9,295,809
減価償却費	272,911	70,194	43,453	16,843,990	16,843,990	0		17,092,235
消耗品費	343,340	357,162	617,780	14,860,359	14,860,359	0		15,919,397
医薬品費	0	0	0	4,273,976	4,273,976	0		4,273,976
食糧費	0	0	7,649	1,797,342	1,797,342	0		1,821,176
修繕費	16,817	37,260	25,733	2,871,997	2,871,997	0		2,952,147
印刷製本費	53,719	19,181	14,018	851,902	851,902	0		1,207,557
燃料費	70,750	73,948	43,643	3,735,212	3,735,212	0		3,871,558
光熱水料費	14,400	209,661	184,800	37,797,904	37,797,904	0		37,999,603
賃借料	1,392,331	3,635,728	1,818,792	27,267,188	27,267,188	0		28,579,691
保険料	94,499	92,475	92,031	2,459,776	2,459,776	0		3,544,973
支払負担金	0	0	0	0	0	0		59,000
諸謝金	0	0	16,705	16,705	16,705	0		116,334
租税公課	178,813	128,542	59,271	3,520,389	3,520,389	0		4,231,641
報償費	0	0	0	0	0	0		180,000
委託費	17,621	377,327	65,694	84,172,541	84,172,541	0		85,729,483
会議費	0	0	0	3,000	3,000	0		156,817
地域交流費	0	0	0	0	0	0		130,995
研修費	98,300	161,920	78,780	1,663,720	1,663,720	0		1,952,440
諸会費	0	0	0	728,080	728,080	0		728,080
寄付金	0	0	0	0	0	0		2,740
渉外費	0	0	0	0	0	0		48,700
手数料	63,264	78,070	21,425	1,632,332	1,632,332	0		2,172,811
雑費	0	0	4,700	32,168	32,168	0		32,168
管理費	0	0	0	0	0	58,879,806		58,879,806
役員報酬	0	0	0	0	0	4,927,000		4,927,000
給料手当	0	0	0	0	0	28,001,253		28,001,253
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	1,608,878		1,608,878
法定福利費	0	0	0	0	0	2,679,292		2,679,292
賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0	1,077,898		1,077,898
退職給付費用	0	0	0	0	0	914,116		914,116
福利厚生費	0	0	0	0	0	416,140		416,140
採用費	0	0	0	0	0	5,150,709		5,150,709
職員被服費	0	0	0	0	0	40,954		40,954
旅費交通費	0	0	0	0	0	94,510		94,510
通信運搬費	0	0	0	0	0	159,520		159,520
減価償却費	0	0	0	0	0	93,591		93,591
消耗品費	0	0	0	0	0	375,108		375,108
食糧費	0	0	0	0	0	0		0
修繕費	0	0	0	0	0	99,961		99,961
印刷製本費	0	0	0	0	0	264,409		264,409
燃料費	0	0	0	0	0	7,460		7,460
光熱水料費	0	0	0	0	0	167,251		167,251
賃借料	0	0	0	0	0	573,721		573,721
保険料	0	0	0	0	0	273,772		273,772
諸謝金	0	0	0	0	0	2,915,730		2,915,730
租税公課	0	0	0	0	0	1,764,359		1,764,359
委託費	0	0	0	0	0	5,023,615		5,023,615
研修費	0	0	0	0	0	414,940		414,940
諸会費	0	0	0	0	0	211,540		211,540
寄付金	0	0	0	0	0	18,904		18,904
渉外費	0	0	0	0	0	0		0
手数料	0	0	0	0	0	1,248,576		1,248,576
支払利息	0	0	0	0	0	351,599		351,599
雑費	0	0	0	0	0	5,000		5,000
経常費用計	26,041,622	49,155,303	32,676,728	1,058,645,327	1,058,645,327	58,879,806		1,222,381,242
当期経常増減額	366,184	658,970	1,424,949	76,067,203	76,067,203	△ 58,246,052		△ 12,466,954
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
その他臨時収益	0	0	0	0	0	0		0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0		0
(2) 経常外費用								
固定資産除却損	0	0	0	2	2	294,467		294,469
その他臨時費用	0	0	0	0	0	379,539		379,539
経常外費用計	0	0	0	2	2	674,006		674,008
当期経常外増減額	0	0	0	△ 2	△ 2	△ 674,006		△ 674,008
税引前当期一般正味財産増減額	366,184	658,970	1,424,949	76,067,201	76,067,201	△ 58,920,058		△ 13,140,962
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0		0
当期一般正味財産増減額	366,184	658,970	1,424,949	76,067,201	76,067,201	△ 58,920,058		△ 13,140,962
II 指定正味財産増減の部								
一般正味財産への振替額	0	0	0	△ 1,337,124	△ 1,337,124	0		△ 1,337,124
当期指定正味財産増減額	0	0	0	△ 1,337,124	△ 1,337,124	0		△ 1,337,124

# 貸借対照表

平成31年 3月31日現在

一般財団法人 宝塚市保健福祉サービス公社

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	87,177,030	88,977,822	△ 1,800,792
未収金	167,946,690	181,560,995	△ 13,614,305
未収収益	37,872	39,587	△ 1,715
前払費用	393,440	423,000	△ 29,560
前払替金	2,677,611	2,753,804	△ 76,193
立替金	87,960	110,320	△ 22,360
仮払金	0	46,155	△ 46,155
流動資産合計	258,320,603	273,911,683	△ 15,591,080
<b>2. 固定資産</b>			
<b>(1) 基本財産</b>			
定期預金	200,000,000	200,000,000	0
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
<b>(2) 特定資産</b>			
能力開発積立資産	10,000,000	11,711,089	△ 1,711,089
減価償却積立資産	40,000,000	40,000,000	0
修繕積立資産	50,000,000	59,915,411	△ 9,915,411
車両運搬具	2	17,972	△ 17,970
什器備品	487,310	838,750	△ 351,440
ソフトウェア	1,370,938	2,338,652	△ 967,714
特定資産合計	101,858,250	114,821,874	△ 12,963,624
<b>(3) その他固定資産</b>			
建物附属設備	2,876,989	3,074,708	△ 197,719
構築物	31,364,097	32,555,829	△ 1,191,732
車両運搬具	7,618,350	9,800,821	△ 2,182,471
什器備品	13,593,801	6,093,838	7,499,963
ソフトウェア	15,238,325	11,362,151	3,876,174
敷金	319,599	849,661	△ 530,062
保証金	313,000	583,000	△ 270,000
出資金	500,000	698,000	△ 198,000
その他固定資産合計	100,000	100,000	0
固定資産合計	71,924,161	65,118,008	6,806,153
資産合計	373,782,411	379,939,882	△ 6,157,471
資産合計	632,103,014	653,851,565	△ 21,748,551
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払税金	62,521,701	67,341,545	△ 4,819,844
未払法人税	0	82,000	△ 82,000
未払消費税	0	2,246,200	△ 2,246,200
未払費用	17,886,546	18,901,802	△ 1,015,256
前受金	3,600	0	3,600
預り金	14,205,427	15,611,699	△ 1,406,272
賞与引当金	38,796,088	49,324,968	△ 10,528,880
1年内返済予定リース債務	5,095,573	1,804,698	3,290,875
流動負債合計	138,508,935	155,312,912	△ 16,803,977
<b>2. 固定負債</b>			
リース債務	16,188,027	6,654,515	9,533,512
固定負債合計	16,188,027	6,654,515	9,533,512
負債合計	154,696,962	161,967,427	△ 7,270,465
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
定期預金	200,000,000	200,000,000	0
車両運搬具	2	17,972	△ 17,970
什器備品	487,310	838,750	△ 351,440
ソフトウェア	1,370,938	2,338,652	△ 967,714
指定正味財産合計	201,858,250	203,195,374	△ 1,337,124
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(1,858,250)	(3,195,374)	△ 1,337,124
<b>2. 一般正味財産</b>			
(うち特定資産への充当額)	275,547,802	288,688,764	△ 13,140,962
(うち特定資産への充当額)	(100,000,000)	(111,626,500)	△ 11,626,500
正味財産合計	477,406,052	491,884,138	△ 14,478,086
負債及び正味財産合計	632,103,014	653,851,565	△ 21,748,551

## 財産目録

平成31年 3月31日現在

一般財団法人 宝塚市保健福祉サービス公社

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>			
現金	手元保管		347,516
		運転資金として	347,516
預金	郵便貯金		523,726
	郵便貯金 (1120-3-68145)	運転資金として	523,726
	普通預金		86,305,788
	三菱UFJ銀行 宝塚中山支店 (3680612)		86,305,788
未収金		主として介護報酬等	167,946,690
未収収益		定期預金利息の未収分	37,872
前払金		4月分の前払家賃・駐車場代	393,440
前払費用		保険料、システム保守料 他	2,677,611
立替金	依頼会員、職員等に対する	提供会員報酬、互助会費等の	87,960
<b>流動資産合計</b>			<b>258,320,603</b>
<b>(固定資産)</b>			
<b>基本財産</b>			
預金	定期預金	運用益を介護保険事業等の	200,000,000
	尼崎信用金庫	財源として使用	101,000,000
	宝塚支店		
	池田泉州銀行		99,000,000
	逆瀬川支店		
<b>特定資産</b>			
能力開発積立資産	定期預金	介護保険事業等の積立資産を	10,000,000
	池田泉州銀行	能力開発資金として管理	
	逆瀬川支店		
減価償却積立資産	定期預金	固定資産取得のための積立資産	40,000,000
	池田泉州銀行		
	逆瀬川支店		
修繕積立資産	定期預金	介護保険事業等の積立資産を	50,000,000
	尼崎信用金庫	資産修繕資金として管理	
	宝塚支店		
車両運搬具		定期巡回随時対応型訪問介護	2
什器備品		看護事業(補助金事業)に使用	487,310
ソフトウェア			1,370,938
<b>その他</b>			
建物	3,373.44㎡	介護保険事業等の施設として使用	2,876,989
建物附属設備	宝塚市小浜4-5-6		31,364,097
構築物			7,618,350
車両運搬具			13,593,801
什器備品			15,238,325
ソフトウェア			319,599
敷金			313,000
保証金			500,000
出資金			100,000
<b>固定資産合計</b>			<b>373,782,411</b>
<b>資産合計</b>			<b>632,103,014</b>

## 財産目録

平成31年 3月31日現在

一般財団法人 宝塚市保健福祉サービス公社

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)			
未払金	宝塚市医師会他62件に 対する 他	介護保険事業等に供する備品 購入等の未払分 他	62,521,701
未払法人税等			82,000
未払消費税等			2,437,000
未払費用		職員退職手当掛金(1~3月)の 未払分 他	17,886,546
前受金	2019年度年会費	介護ファミリーサポート事業1名分	3,600
預り金		社会保険料、住民税等の預り分	14,205,427
賞与引当金		従業員271名に対する賞与の 支払いに備えたもの	38,796,088
1年内返済予定 リース債務	車両運搬具、什器備品		5,095,573
流動負債合計			141,027,935
(固定負債)			
リース債務	車両運搬具、什器備品		16,188,027
固定負債合計			16,188,027
負債合計			157,215,962
正味財産			474,887,052

## 財務諸表に対する注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(建物、構築物)・・・定額法による。

有形固定資産(建物附属設備)・・・定率法による。

ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法による。

有形固定資産(車両運搬具、什器備品)・・・定率法による。

無形固定資産(ソフトウェア)・・・定額法による。

リース資産(所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産)

・・・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法による。

リース資産(所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産)

・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法による。

#### (2) 引当金の計上基準

賞与引当金・・・職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

#### (3) リース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

引き続き通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理を適用している。

#### (4) 消費税等の会計処理について

消費税等の会計処理は、税込方式による。

### 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	200,000,000	0	0	200,000,000
小 計	200,000,000	0	0	200,000,000
特定資産				
能力開発積立資産	11,711,089	0	1,711,089	10,000,000
減価償却積立資産	40,000,000	0	0	40,000,000
修繕積立資産	59,915,411	0	9,915,411	50,000,000
車両運搬具	17,972	0	17,970	2
什器備品	838,750	0	351,440	487,310
ソフトウェア	2,338,652	0	967,714	1,370,938
小 計	114,821,874	0	12,963,624	101,858,250
合 計	314,821,874	0	12,963,624	301,858,250

### 3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの 充当額)	(うち一般正味 財産からの 充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	200,000,000	(200,000,000)	0	—
小 計	200,000,000	(200,000,000)	0	—
特定資産				
能力開発積立資産	10,000,000	0	(10,000,000)	—
減価償却積立資産	40,000,000	0	(40,000,000)	—
修繕積立資産	50,000,000	0	(50,000,000)	—
車両運搬具	2	(2)	0	—
什器備品	487,310	(487,310)	0	—
ソフトウェア	1,370,938	(1,370,938)	0	—
小 計	101,858,250	(1,858,250)	(100,000,000)	—
合 計	301,858,250	(201,858,250)	(100,000,000)	—

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
車両運搬具	265,280	265,278	2
什器備品	3,003,949	2,516,639	487,310
ソフトウェア	4,838,579	3,467,641	1,370,938
小 計	8,107,808	6,249,558	1,858,250
その他固定資産			
建物	4,295,500	1,418,511	2,876,989
建物附属設備	68,717,569	37,353,472	31,364,097
構築物	30,790,830	23,172,480	7,618,350
車両運搬具	24,974,216	11,380,415	13,593,801
什器備品	61,879,400	46,641,075	15,238,325
ソフトウェア	4,556,325	4,236,726	319,599
小 計	195,213,840	124,202,679	71,011,161
合 計	203,321,648	130,452,237	72,869,411

5 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
定期巡回事業補助金	宝塚市	3,195,374	0	1,337,124	1,858,250	指定正味財産
合計		3,195,374	0	1,337,124	1,858,250	-

6 リース取引関係

(ファイナンス・リース取引)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容: 車両運搬具、什器備品

(リース会計基準適用初年度開始前のファイナンス・リース取引関係)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位:円)

	什器備品
取得価額相当額	4,185,888
減価償却累計額相当額	4,185,888
期末残高相当額	0

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位:円)

	1年以内	1年超	合計
未経過リース料期末残高相当額	0	0	0

(3) 当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位:円)

支払リース料	241,500
減価償却費相当額	232,549
支払利息相当額	628

(4) 減価償却費相当額の算定方法は、定額法による。

(5) 利息相当額の算定方法は、リース料総額とリース資産計上価額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法による。

7 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内容	金額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	1,337,124
合計	1,337,124

## 附属明細書

### 1 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、記載を省略しております。

### 2 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	49,324,968	38,796,088	49,324,968	0	38,796,088
合 計	49,324,968	38,796,088	49,324,968	0	38,796,088